

愛知学院大学（愛知 学生はアルバイト先 3回目は当初これま
県日進市）は11月14日、のスーパーに相談した らえ、取材によってさ
林幹人・経営学部教授 り場所の確保のため行 さまざまな人とつながる
のゼミ活動の一環とし 政に働き掛けたりする ことができた。今後も
てフードロス削減とこ など課題を解決してい を受け、食材をまとめ 続けていきたい」と話
ども食堂をつなげた課 ったほか、近隣のこど ー形式に変更。提供さ つなぐというSNS
題解決の取り組み「た も食堂でボランティア れた食材に加え、子供 の活用が思い付くが実
べっこ」の3回目をフ 活動を行 ったノウ
ードパントリー形式で 実
実施した。

林教授のゼミでは身 積。20
の回りのさまざまな問 19年後
題を情報とコミュニケ 半から準
ーションという観点か 備を進
ら解決する方法を考 め、今年
え、実践により検証し 4月から
ていくことを課題とし 始める予
ている。今回のたべっ 定だった
こはフードロス（売れ がコロナ
残りなどの食品廃棄） 禍で延期
の問題を研究したい学 となり、
生と、こども食堂に関 9月26日

学生の別々のアイデア結び付き実現

「たべっこ」実施

フードロス×「たべっこ」実施 こども食堂 大拡再感染 3回目

愛知学院大学

たちが持ち帰っ て食べられるよ ない。企業にとつてフ
う事前に調理し ードロスで処分される
た弁当も配布、 食品は元々大切な商品
さらにゼミ生の だから、社会のために
知り合いから提 生かされる確信が持て
供された手作り なければ渡せない。学
マスクも添えら 生たちは協力してもら
れた。 えそうな人や企業を訪
これまでのた ねて思いを伝え、『信
べっこの取り組 頼』を得られたからこ
みについて、学 そ実現できたと思う」
生は「最初は何 と語っている。

から手を 付けたら

心がある学生の別々の アイデアが結び付いて
名古屋市内のコミュニ ティーセンターで開催
用と食材の確保という した。10月には2回目
テーマをつなげれば双 を開き、初回参加の子
方の問題が解決するの 供が友達を誘って参加
ではという発想から取 した上、提供食材も増
り組みを始めた。 加した。

方法を教えるも



食材に加え弁当、マスクも配布